

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

16

発行日：2011年12月20日(火)

地域企業紹介 No. 16
株式会社キャロットシステムズ

「どうせやるなら楽しく！」

相模原市緑区西橋本でシステムの受託開発を行う株式会社キャロットシステムズの代表取締役西澤勇司氏を訪ね、これまでの歩みや今後の抱負などを語っていただきました。

西澤氏の故郷は、長野県信州新町(現長野市)。機械工学(メカトロニクス)を学び、地元の計測機器メーカーに就職。製造技術部門で計測にまつわる治工具の設計・開発を担当、切削加工なども自分の手で行い、振り返れば「設計をしながら遊ばせていただいたようなもの」と笑うものの、「今の自分・社業の礎である」と語る。その後、知人の紹介で東京の会社に転職。製造メーカーとの交渉で、アメリカやシンガポールで単身の商談出張をこなす中で、「物事何とかなるものだ。」ということが染みついた。

西澤氏29歳、仲間と二人で起業・独立を果たし、ファンクションテスターと呼ばれる計測制御の事業を開始した。創業した年の暮に受注したシステムの納品先を訪問したところ、先方の社長が「創業間もなく大変であろう」と即金で支払いをしていただいた。創業間もない厳しい時期で、今でも忘れない有難い出来事である。

最終製品の試作依頼の注文増加とともに事業領域が拡大、年に1人ずつスタッフが増え、光ファイバーケーブルモジュールの受注で大幅に業績が躍進するものの、ITバブル崩壊によって売上高が急減する厳しい環境変化の局面に遭遇する。ここではRFIDの開発を先行していたことが功じて大手企業からの受注に至り、厳しい局面を乗り切った。

一方、以前から取り組みたかったというB To Cのコンシューマービジネスに、防犯カメラ事業として乗り出す。2005年、エントリーモデル1機種からスタート。台湾や中国で製造・組立を行い日本で販売するもの。現在では法人向け製品も追加するなどラインナップ数が増え好調である。

キャロットシステムズの社名は、「Creativity(創造) And Revolution2(革新2) Of Technology」。顧客からの設計・製造依頼に、創造的・革新的な要素を組み入れ商品のさらなる付加価値向上を提案していく思いを込めている。「Carrot(にんじん)」のロゴが印象的でCの効果は抜群である。

社員は24名、最近では事業領域の拡大で営業職も増え、企業体となってきた。今年は新入社員2名が入社。部下や後輩をつけることで上や下が育つ仕組みを考え実践している。今年青森から採用した新入社員のために来年4月には同じ学校から後輩が入社予定だ。(2面につづく)

株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇司
所在地：相模原市緑区西橋本1-16-18
従業員数：24名 資本金：2,750万円 売上高：5億円(2011年6月期実績)
事業内容：1.電子応用装置ならびにコンピュータ応用装置の
企画・設計・製造・販売
2.防犯機器、監視機器およびその周辺機器の
企画・設計・製造・販売
3.高齢者ならびに障害者の支援のための介護機器の
企画・設計・製造・販売
4.医療機器の企画・設計・製造・販売

西澤氏が日頃から社員へ語る言葉に「どうせやるなら楽しく！」がある。仕事は逃げてくれない、仕事はやらざるを得ない。であれば、気持ちの持ちようである。嫌々やるのではなく、楽しくやることで能率的な仕事ができる。社員向けレクリエーションでは登山を行っているそうだ。まずは丹沢で足慣らしを行い、ホップ・ステップで順番に難易度を上げていくのだそうだ。キャロットシステムズの社風や社員教育の一端が伺いしれる。

企業活動に並行し、先輩経営者に誘われ1998年相模原市青年工業経営研究会に入会、経営者として大きな影響を受けた。西澤氏は「会社を経営するという意識改革に繋がった。経営とは何か、ということのを大いに学んだ」と語る。

相模原に移り住み23年、地域の方々に生かされていると考

える。地域の方々へ少しでも役に立つことができればと、相模原商工会議所工業部会副会長などを務め、多忙な毎日過ごす。休日に4歳になる子息と遊ぶことが束の間の息抜きで、会社経営へのビタミン剤になっている。

最近では、医療機器の開発にも関わり、新しい医療機器開発の案件に対応すべく医療用ISO13485取得に向けて活動を開始するとともに、生産体制の確保のために国内外での商談を進めている。ポジティブに常に前を向いて進む西澤氏、次の事業領域へ狙いを定め、跳躍しようとしている。

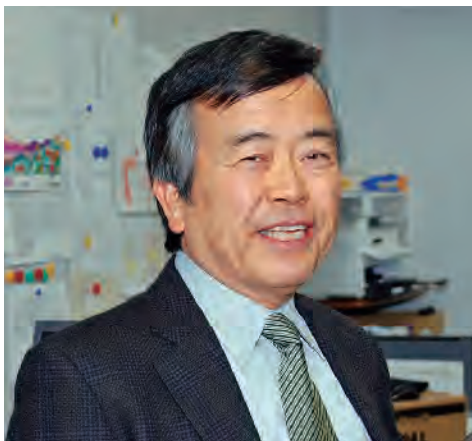


デジタル2.4GHz帯
防水防塵無線カメラセット AT-2730WCS

入居企業紹介

有限会社 啓(ひらく)

電子機器の開発・設計コンサルティング



脇田社長



VERA2000が組み込まれた装置

啓(ひらく)というユニークな社名で、電子機器の開発・設計コンサルティング事業を行っている有限会社啓をご紹介します。

社長の脇田俊昭氏は、ソニーでデジタル磁気記録の研究や、アナログ・デジタル混載システムの開発を行ってきたエンジニアで、2001年世界一の高性能を誇る大容量記録密度を誇ったデータレコーダ“DIR-2000”の長年の開発を完了させた。

DIR-2000は、国立天文台のVERAプロジェクト(銀河系の3次元地図を作成するプロジェクト)用に使用されている超高速のデータレコーダ。家庭用テープビデオデッキで言えば8番組を非圧縮で同時に録画できる性能を持つ、磁気テープ記録技術のソニー最高峰の製品のひとつである。

脇田氏は早期退職制度を利用し2004年3月に有限会社啓を設立。磁気記録装置の開発コンサルタントを行う傍ら、国立天文台が導入したDIR-2000の保守業務や、DIR-2000の互換再生機であるVERA-2000の開発を行ってきたが、天文台関連業務が縮小していく中、新しい開発案件を手掛け始めている。

一つには、脳波からアルツハイマー

やうつ病などの解明を目指し脳機能の解析システムに利用される増幅器の開発がある。

また、地元中小企業からの依頼を受け、増幅器(アンプ)の開発やソーラーパネルに対応する充電器の開発など、受託開発を行っている。一方、コンサルタント業務として、電子機器の開発支援も依頼され、メーカーの縁の下での力持ちとなっている。

脇田氏は、「科学技術の進歩に貢献して行くこと、技術を探求し続けることが夢」と語る。アナログとデジタルの技術の狭間を得意技とし、企業の製品開発に協力を行っていきたいと指向する中で、啓は、オープンしたばかりのSIC-3 i-labへ平成23年12月移転する。SIC-3でさらに飛躍していくことを期待しています。

有限会社 啓(ひらく)
代表取締役 脇田 俊昭
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
SIC-1 303号室
TEL.042-770-9513 / FAX.042-770-9533
E-MAIL:cherryhill@hirak.co.jp
URL: <http://www.hirak.co.jp/>
(平成24年1月からの新住所)
〒252-0243 相模原市中央区上溝1880-2
SIC-3 i-lab 316号室
TEL.042-707-8734 / FAX.042-707-8735

SIC台湾ビジネスマッチング 第2回 レポート

「SIC台湾ビジネスマッチング第2回」が平成23年11月23日から25日の三日間行われ、日本企業4社が台湾企業とのビジネスマッチングに臨みました。23日が台湾工業技術研究院(ITRI)台北センター、24日が新竹にあるITRI本部で行われました。ここでは23日の様子を中心にレポートします。

11月22日午後

S I C 台北ビジネスセンターがオープン： S I C の入居企業や地域企業の台湾でのビジネスをサポートするため S I C 台北ビジネスセンターを開設しました。20㎡と狭いオフィスですが台北駅に近いなど立地もよく、また台湾でのビジネス経験豊富な田中享次さんを所長に迎え活動を開始しました。ただいま、利用会員を募集中です。

11月23日午前

熱気溢れる企業プレゼン： ITRI台北センターのプレゼンテーション会場に台北はもちろん高雄、台南、台中、新竹と台湾全土から70人余りが集まりました。集まった台湾企業は起業間もないベンチャー企業、半導体や液晶などの専門商社、高い製造技術を持つ中小企業、世界的に有名な携帯電話やパソコンのメーカーまで多種多様。変わったところでは大手のお米屋さんも。ITRIが持つ人脈やネットワークをフル回転させて良い企業を集めてもらいました。

SIC入居企業2社と地域企業2社が自社の高い技術やサービスを懸命にアピール。とても関心が高く、具体的な質問が次つぎ飛び交う熱い会場になりました。

11月23日午後

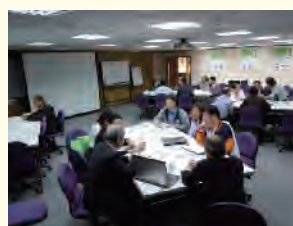
30件の個別商談： 日本企業4社に対し合計30件の商談がありました。最も多く商談した企業は午後1時30分から20分刻みで9社と商談しました。4社の商談内容は「商品を買らせてほしい」「製造を受託したい」「アジア市場を一緒に開拓しよう」といったものから「この素材を〇〇に使いたい」「〇〇装置や〇〇システムの開発は可能か」といった具体的なもののまで。総じて日本企業の技術力への期待感が高く、むしろ参加した日本企業の力量が試されることに。

【感じたこと】

今回のビジネスマッチングはITRIや台湾経済部との共催事業になったこともあり、台湾サイドが的確な企業選定をしてくれました。したがって、参加企業は日本企業4社の技術やサービスにとっても関心があり、即ビジネスにつなげたいと考えているようでした。「明日、わが社に来て具体的な商談をしよう」と多くの企業から声が掛けられました。この期待に素早く、確実に応えることができるのか。日本企業4社の成功はそのスピードにかかっているのではないかと思います。

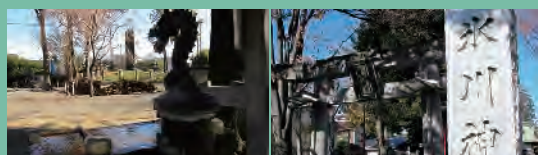
ビジネスマッチングは2回目ですが、日本企業の高い技術力と台湾企業のビジネスやマーケティングの力を合わせてアジア市場を攻めようとする台湾の強い意思を改めて感じました。

(株)さがみはら産業創造センター 山本 満



市内の氷川神社を訪ねる！

間もなく新しい年、ちい旅スタッフは、市内の氷川神社に行ってきました。暖かな冬の陽ざしに満ちた神社は、天保14年(1843)に、相模原の開拓のため五穀豊穡や子孫繁栄を祈願して創建されました。境内には、開拓を記した4.5mの「開墾記念碑」があります。題字「開墾記念碑」は第15代將軍徳川慶喜の書とのこと。入植者の偉業を感じるこの氷川神社で新年を迎えてみませんか。



ちい旅 ちい旅 ちい旅

SIC3 i-Lab.が上溝に完成しました！

3月5日起工式を終えてから、9か月が過ぎました。この間、東日本大震災が起きるなど、心配される事も多々ありましたが、無事検査も終わり入居が始まりました。ここに、皆様に「SIC-3.Innovation Laboratory」が完成いたしましたことをご報告申し上げます。

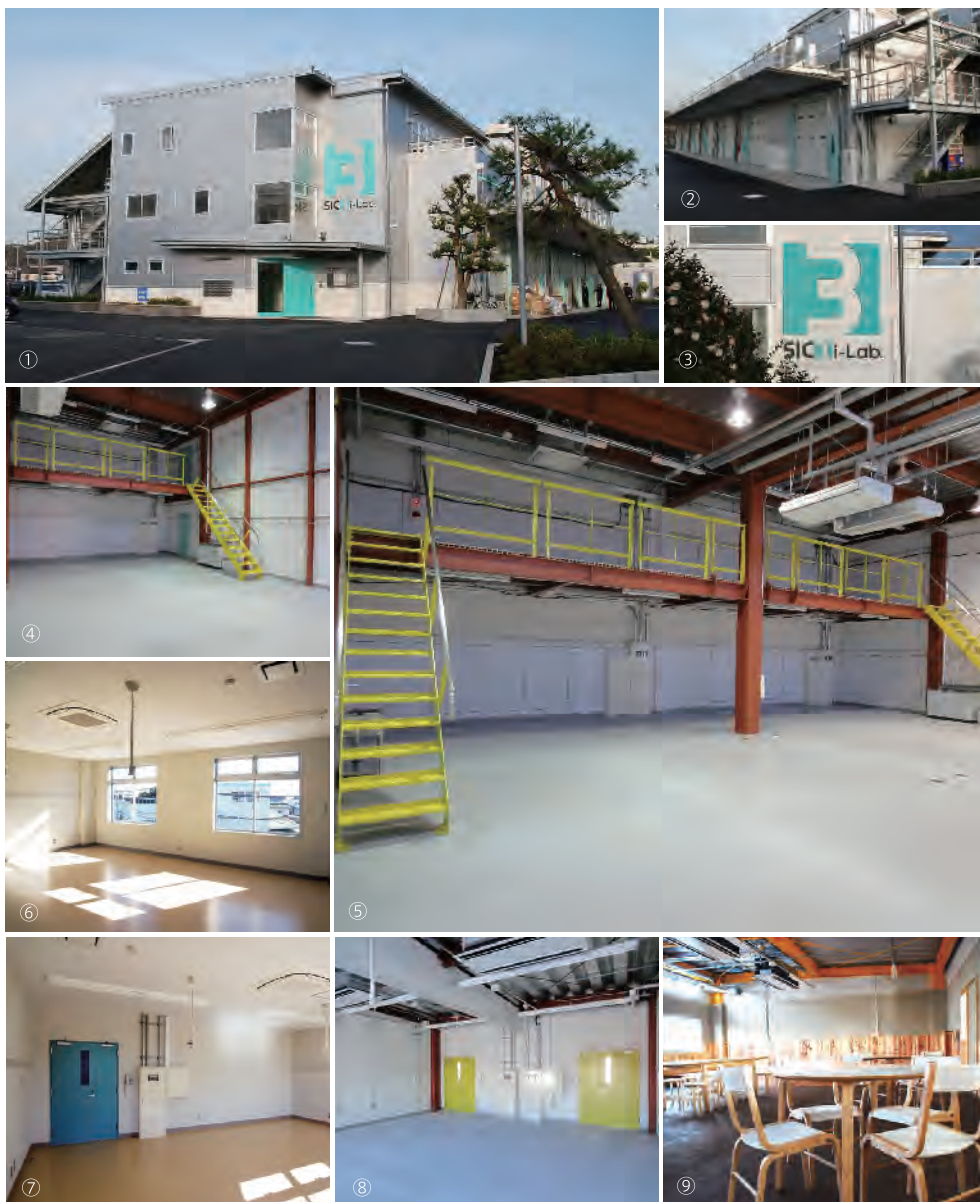
SIC-3は、愛称をi-Labとし、創業期から成長期に移行する「独創的な技術を持つものづくり企業」の集積を図りながら、次世代のリーディング産業を創造しようとするものです。

皆様の事業拠点の検討のひとつとして、ご検討いただければ幸いです。

SIC-3を写真でご紹介いたします。

※詳しくは、SICホームページをご覧ください。

- ① SIC-3 正面
- ② SIC-3 北側
- ③ SIC-3 ログマーク
- ④ 1~2F ラボ(1部屋)
- ⑤ 1~2F ラボ(2部屋続)
- ⑥ 3F オフィスA-1
- ⑦ 3F オフィスA-2
- ⑧ 3F セミラボB-2
- ⑨ 3F 食堂



1月~ SICイベントカレンダー

2012年1月~

2012年1月17日	SIC-3 竣工式
2月14日	T-BISCビジネスマッチング(予定)
2月23日	入居企業交流会(予定)



入居企業を募集してます。

SIC 空室情報 (12月20日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(賃料：共益費込み)

部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1 セミラボ B	31.5 m ² 1	93,975 円
SIC-2 オフィス (6 階)	50.2 m ² 2	164,850 円
SIC-3 ラボ (84 m ²) + サブラボ (28 m ²)	4	211,680 円
セミラボ A	56 m ² 2	117,600 円
セミラボ B	28 m ² 3	58,800 円
オフィス B	21 m ² 1	48,510 円

編集後記

SICの年末年始のお休みは、12月29日(木)~1月3日(火)まで、2012年は1月4日(水)から通常通り営業いたします。SICでは、お休みに入る前の大掃除として、汚れた壁のペンキ塗りが恒例となっています。毎年、平均年齢が上がる一方のSICスタッフですが、年に一度の“今日だけペンキ屋さん”があらこちらに登場いたします。(前日の養生を含めると2日間?)

大掃除は、どなた様も腰を痛めないようにお体に気をつけて、元気に新年をお迎えいただきたいと思います。漢字語源によると、2012年は辰年でも60年に1度の組み合わせ“壬辰(みずのえたつ/じんしん)”で、「先人が“壬辰”の二文字で示唆した時世は、従来の社会の仕組みを変える端緒が切られる年」だそうです。陽に向かう年となるといいですね。



★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>